

沖縄県における急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出状況 令和 7 (2025) 年度分

急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体サーベイランスとは

令和 7 年 (2025 年) 4 月 7 日からスタートしたインフルエンザウイルスや新型コロナウイルス、RS ウイルスなど、のどや肺に感染して急な発熱や咳を引き起こす病原体の流行状況を国や地方自治体、医療機関がチームを組んで継続的に監視・調査する仕組みのことです。継続的に調査することで、病気の流行状況の変化をいち早く把握し、対策に役立てることを目的としています。

沖縄県における ARI 病原体検出状況

令和 7 年 (2025 年) 4 月から令和 8 年 (2026 年) 3 月までに ARI 病原体定点医療機関 (県内 3 医療機関) から提出された咽頭ぬぐい液 305 例についてウイルス遺伝子検査を実施し、そのうち 239 例 (78.4%) からウイルスが検出されました (図 1)。最も多く検出された

ウイルスは、4 月はヒトパラインフルエンザウイルス 3 型、ライノウイルス/エンテロウイルスおよびインフルエンザウイルス B 型、5 月はヒトパラインフルエンザウイルス 3 型、6 月から 8 月は新型コロナウイルス、9 月から翌年 1 月まではインフルエンザウイルス A 型、翌年 2 月はインフルエンザウイルス B 型およびライノウイルス/エンテロウイルス、3 月はヒトパラインフルエンザウイルス 1 型およびライノウイルス/エンテロウイルスでした。1 人の患者さんから複数のウイルスが検出されることもありました。

新型コロナウイルスが検出された場合は、遺伝子情報を詳細に調べるゲノム解析を実施し、ウイルスの家系図を作成し、遺伝学的な近さを調べます (図 2)。これを系統解析といいます。これにより、ウイルスがどこから来て、どう広がったのかを知ることができ、どこで感染が起きやすいのか、感染防止対策が必要な地域はどのなのか分かるようになります。さらに、新しいタイプのウ

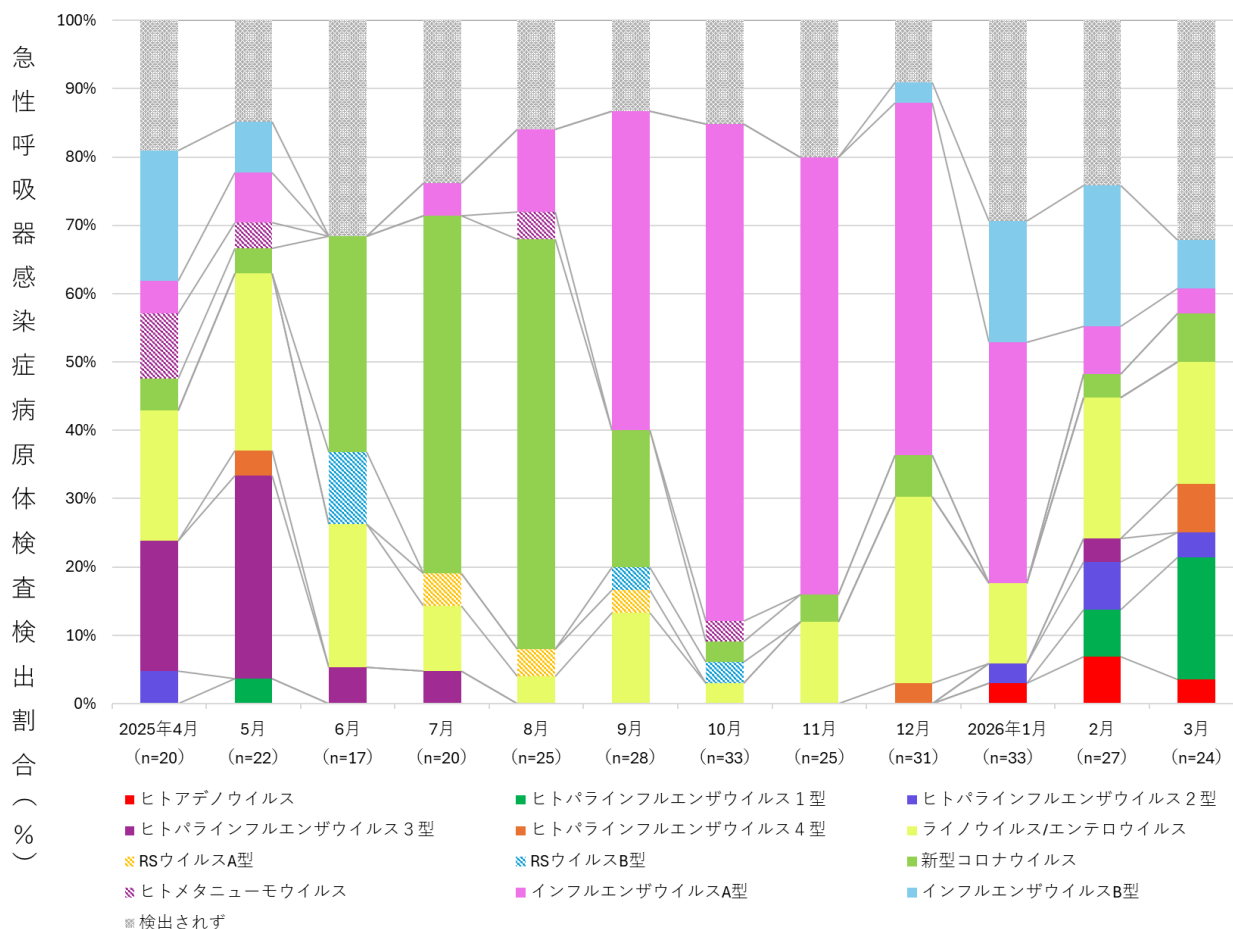


図 1. 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月に採取された ARI 病原体検出割合 (n は検体数を示す)

イルスの早期探知や、ウイルスの変化を監視できるため、ワクチンや治療薬の開発に役立ちます。

沖縄県では新型コロナウイルスが 6 月から 9 月にかけて多く検出されました(図 2)。4 月および 5 月に検出された新型コロナウイルスは、2021 年 11 月¹⁾から現在も流行の主流となっているオミクロン株の子孫である NB.1.8.1 でした(図 2、3)。6 月から 12 月の間には、NB.1.8.1 の子孫たちが多く検出されるようになり、新型コロナウイルスが時間の経過とともに変化していったことがうかがえます(図 2、3)。翌年 2 月から 3 月には今まで検出されていた NB.1.8.1 の子孫とは異なる系統である RE.1.1 および RS.1.3 が検出されました(図 2、3)。このふたつは、同じオミクロン株の子孫ですが、BA.3 から突如出現した子孫であることが分かります(図 2、3)。

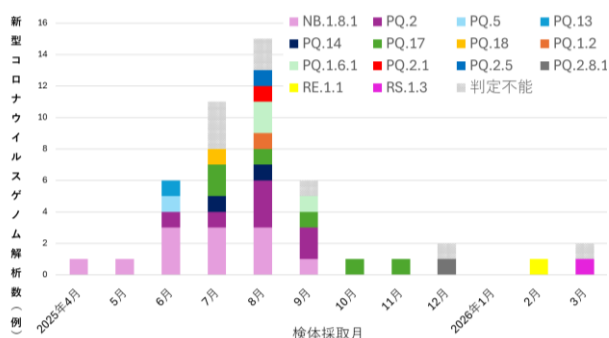


図 2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月採取)

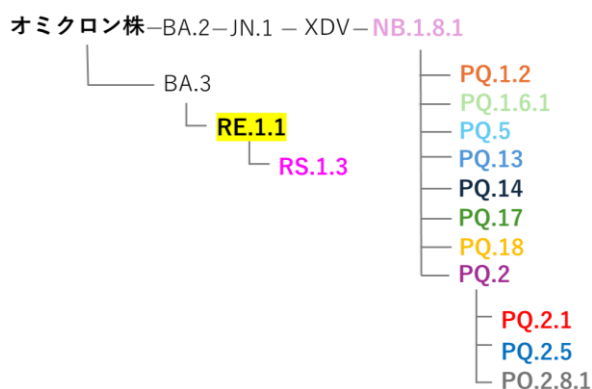


図 3. オミクロン株の子孫(一部抜粋)

インフルエンザウイルスが検出された場合は、さらに細かく分類するために亜型および系統まで検査します。(図 4)。インフルエンザウイルスの亜型または系統が判明したものは 106 例あり、インフルエンザウイルス A 型 AH3 亜型が 76.4% (81/106 例)と最も多く検出されました。次に多く検出されたのはインフルエンザウイルス B 型 Victoria 系統が 17% (18/106 例)で、AH1pdm09 亜

型は 6.4% (7/106 例)でした。9 月～1 月までは AH3 亜型が主に流行し、2 月以降は Victoria 系統が流行しました(図 4)。

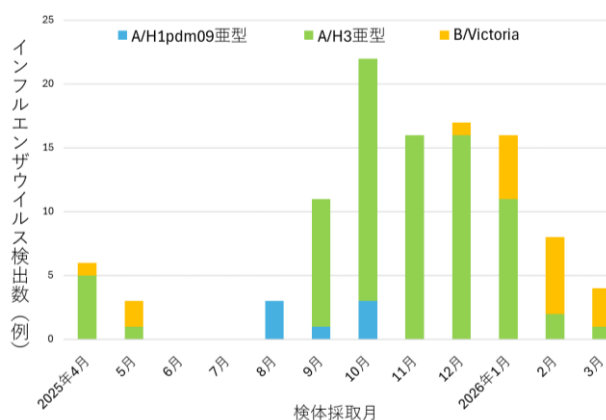


図 4. インフルエンザウイルス型別検出数(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月採取)

ARI 病原体サーベイランスの将来

従来のシステムでは特定の疾患(インフルエンザなど)と診断された患者数と病原体を疾患ごとに別々に集計する仕組みでした。そのため、2020 年の新型コロナウイルス感染症発生時のように、まだ正体がわからない新しいウイルスが流行し始めた場合に流行をすばやくキャッチ(探知)できないという課題がありました。それを克服するために始まった ARI 病原体サーベイランスは、既知の病原体が検出されない検体の割合、患者さんの年齢および住んでいる地域などを見ることで、未知のウイルスの出現および流行にいち早く気づき、社会全体で先手を打つというシステム作りになっていくことが期待されます。

沖縄県の ARI 病原体サーベイランスの最新情報

沖縄県感染症情報センターのホームページ(<https://www.pref.okinawa.jp/iryokenko/shippeikanse-nsho/1005861/1006484.html>)で公開しています。

参考資料

- 1) 国立健康危機管理研究機構(2022)SARS-CoV-2 B.1.1.529 系統(オミクロン株)感染による新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査(第 1 報):感染性持続期間の検討。
<<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/2019-ncov-e/10880-covid19-66.html>>. 2026 年 6 月アクセス。

【感染症研究センター】